

大阪市総合教育センター
教育振興担当 実践研究グループ
首席指導主事様

研究コース
B グループ研究B
校園コード(代表者校園の市費コード)
511001

代表者	校園名:	堀川小学校
	校園長名:	衣笠 博政
	電話:	6358-3336
	事務職員名:	藤原 沙妃
申請者	校園名:	堀川小学校
	職名・名前:	首席・流田 賢一
	電話:	6358-3336

令和7年度「がんばる先生支援」申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	継続研究(3年目)
2	研究テーマ	子ども主語への学びの転換 - 国語科の指導の系統と個別最適な学びをめざす授業のあり方 -			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てして記載してください。</p> <p>1. シンプルな授業づくりとなり児童主体の学びへと転換するために、指導の系統を意識した学習内容の精選 2. 児童が学びをメタ認知し、自己調整できるためのポートフォリオの開発 単元始一学びを一覧できる方法(デジタルとアナログ) 3. 国語科の個別最適な学びを理論研修、整理、提案、検証 個別最適な学びを実施する場面を整理、単元のどこで実施できるか実践提案 4. 子ども主語へ学びが転換することで学ぶ意欲が向上と学力の向上の相関関係を検証 5. 教材分析一公開授業を同一教材でセット開催することで教員の指導力向上 6. 公開研究会を複数回開催し、賛同者を増やし全国に研究の輪を拡大</p>			
4	研究内容	<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>学習指導要領の改訂、教科書の改訂を経て、令和の日本型教育の答申が出された。これから社会で活躍するために必要な力を学校教育の中どのように育成するのかが課題である。それには従来型の授業から、学習指導要領の理念である子ども主語への学びへと転換する必要性を強く感じているため以下の研究を推進する。</p> <p>①【指導の系統を意識し、授業内容をシンプルに】 国語科は1つの教材から学ぶことは多くある。そのため、この教材で何を学ばせたいのかを指導者が系統の中ではっきりと持つことでシンプルな授業となる。授業がシンプルになれば、児童が自ら学ぶ方向性が分かりやすくなると考える。教科書教材をベースに学ぶ内容を整理していく。</p> <p>②【ポートフォリオの開発 単元始一学びの変容一単元末まとめる】 単元始に問い合わせ、学びを駆動させる。単元末の学びは振り返りにより、何を学んだのかを整理する。その過程で学びの道筋や問い合わせの変化を書き留めるための場を作る。これら3つの学びの足跡を整理することで、児童が自らの学びをメタ認知し、学びを調整するためのポートフォリオを研究開発する。</p> <p>③【国語科の個別最適な学びを整理・提案・検証】 国語科の個別最適な学びの理論を学び、実践を通して授業提案する。自ら学ぶためには、指導の系統は欠かせない。既習の活用、方向性の共有、互いの学びを確認、ゴールに向かうまとめなど、具体的に個別最適な学びを整理し提案する。また、児童アンケートや学力テスト、教員アンケートから児童の学びの姿を検証する。</p> <p>④【公開研究会で提案 学びの輪を広げる】 教材分析・公開授業を同じ教材で公開することで、分析と実践を学び合う。個別最適な学びの理論だけでなく、実際の子どもの姿から具体的なめざす児童像を議論する。提案内容に賛同する参会者を増やすことで、研究内容が広まっていくと考える。</p> <p>(2)継続研究〔2年目〕 ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>【成果】令和の日本型学校教育を実現するための授業デザインの提案ができた。児童の学力向上・意欲向上につながった。多数の参加者があり、本研究が広がった。【課題】めざす子ども像、授業像の定義をする。価値ある問い合わせ・学びを自覚化する振り返り・自己評価のあり方を検討する。上記を踏まえて、(1)の研究内容を継続し、次のこと取り組む。【問い合わせ・振り返り】価値ある問い合わせを生み出し、効果的な振り返りの方法を検討する。【個別最適な学び】授業デザインの改善に加え、授業観、児童観を整理する。【公開】教科書改訂に伴い新教材を分析し、公開研修会を設定する。</p> <p>(3)継続研究〔3年目〕</p> <p>【成果】個別最適な学びを実現する単元の流れを整理し、複数回実践できた。【課題】効果的な問い合わせの設定について考えを深める。学びへの自由度と教師の指導性の関係を探る。上記を踏まえて、(1)の研究内容を継続し、次のこと取り組む。【効果的な問い合わせの設定】効果的な問い合わせとは何か。ステップはあるのか。【学びと指導のあり方】児童が追求したいことを学ぶ中に、教師の指導性がどのように発揮されるのかを複数の実践の中から明らかにする。【学習環境デザイン】先述の2つの実現に影響するのは学びの選択を可能にする学習環境デザインである。学習用具(ホワイトボードなど)などを活用し環境デザインを進める。以上のことを中心に研究に取り組む。</p>			

		<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 【研究企画会】 研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討する。 【国語研修会①】 ・研究に関わる参考文献を検討する。年間計画を策定する。 ・児童アンケート、教員アンケートを作成する。</p> <p>5月 【国語研修会②】 児童アンケート・教員アンケートの実施・分析 低高学年部会に分かれて、教材分析と授業化の研究</p> <p>6月 【国語研修会③】 教材分析公開に向けた分析会 2年「お手紙」、5年「注文の多い料理店」の分析提案</p> <p>7月 【国語研修会④】 複数教材活用のパターンを整理する。 2学期の公開に向けて教材分析と授業化について検討する。</p> <p>8月 【がんばる先生支援 教材分析公開①】 低高の新教材を参加者と分析・教材分析提案 指導助言 明星大学 白石範孝教授 【「アップデートセミナー」 参加】</p> <p>9月 【理論研修会②】 実践を踏まえた個別最適な学びを検討し発表準備</p> <p>10月 【がんばる先生支援 研究発表会②】 公開授業・研究協議（堀川小） 提案授業2年「お手紙」 指導助言 明星大学教授 白石範孝先生</p> <p>11月 【新潟大学附属小学校 公開授業 参加】</p> <p>12月 【国語研修会⑤】 研究会の内容を報告し、実践内容と比較しまとめる 複数教材活用の実践例を整理する</p> <p>1月 【国語研修会⑥】 今までの学びを生かしてまとめの実践をする。 実践のまとめを作成し、2月の出張で学ぶ内容を整理する。</p> <p>2月 【筑波大学附属小学校 学習公開 参加】 【国語研修会⑦】 ・学力経年調査の結果分析 ・児童・教員アンケートの実施・分析 【国語研修会⑧】 研究のまとめ作成、次年度へむけて、本年度の成果と課題の共通理解</p>
5	活動計画	<p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組内容を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月「アップデートセミナー」に参加し最新の実践を学び、研究に反映させる。 ・11月「新潟大学附属小学校 公開研究会」に参加し、実践や研究内容と比較し課題を明らかにする。 ・2月「筑波大学附属小学校 公開研究会」に参加し、経年で研究協力いただいている先生の実践と理論をつなぎまとめて活用する。 ・8月「教材分析公開」の講演 講師：明星大学 白石範孝教授 ・10月「公開授業研究会」の指導助言・講演 講師：明星大学 白石範孝教授
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 変更しない。 理由 経年にわたって、成果を検証するため</p> <p><input type="checkbox"/> 変更する。</p> <p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成および、「教員の資質や指導力」の向上について、それぞれ見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください）</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>ポートフォリオ作成により、児童の学びの方向性がはっきりとする。単元末には学んだ内容と次への学び方を振り返り、自らの学びをメタ認知することができる。学び方を変革することで、児童の学力が向上する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>経年調査国語科の「基礎・活用」（学力）で大阪市平均を超える。学びを振り返り「自分には力がついた」（学力のメタ認知）「今までの学習を思い出し、活用できないかと考える」（既習の活用）と回答する児童の割合が8割以上となる。そして、「今までの学びとの違いをインタビュー調査」（学びの変容）し、児童の学び方が学習意欲や学習内容の理解に与える影響を検証する。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>国語科の個別最適な学びとは、共通のゴールに向かって自ら決めた方法により読み深める学びである。自ら選択・判断・追究することは、児童の意欲の向上、学ぶ力の向上につながる。受け身の学習ではなく、自ら学習するためポートフォリオを見返しながら学びを調整する姿も期待できる。子ども主語の学びは、学びの楽しさを実感することができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>経年調査国語科の「主体的に学習に取り組む態度」が大阪市平均を超える。児童アンケートの「課題解決に向けて最後まで取り組んだ」「どう学んだらいいかを考えた」「問題に出会った時に問い合わせ持ち考えることができた」「学ぶことは楽しい」の割合が9割以上になる。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果3】</p> <p>□ 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 □ 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>教科の本質、教材で学ぶ本質を見極めることでシンプルな授業展開となるため、教材分析力が向上する。大学教員や先進的研究校教員から今後求められる指導について学ぶことができ、児童主体の学びへと転換することができる。理論と実践をつなげて学ぶことができるため、児童の具体的な姿をもとに研究を進めることができる。 『検証方法』</p> <p>研究メンバーへのアンケート結果から、指導力の向上についての肯定的割合が9割以上となる。公開授業研究会では、実際の児童の学びを見てもらい参会者の満足度が8割以上となる。系統を意識した学びを提案し、「系統を意識した授業を実践している」の割合を研究会への複数回参加者の割合が向上する。このことで研究の広がりを検証する。</p>						
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="462 889 1346 945"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 7 年 10 月 29 日</td> <td>場所</td> <td>堀川小学校</td> </tr> </table> <p>◆【必須】 waku2.com-bee掲載による共有</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="462 1001 949 1057"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 8 年 2 月 24 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 7 年 10 月 29 日	場所	堀川小学校	日程	令和 8 年 2 月 24 日
日程	令和 7 年 10 月 29 日	場所	堀川小学校					
日程	令和 8 年 2 月 24 日							
8	代表校園長のコメント	<p>1. 新規研究（1年目）</p> <p>中央教育審議会で「令和の日本型教育」が答申された。資質・能力の育成のために多くの授業改善が示されている。の中でも、個別最適な学びは今後の授業改善でキーとなるものだと考えている。GIGAスクール構想で1人1台端末も配備された。国語科の中でも、授業の中や振り返りとして活用が期待されている。1年目の研究として、児童に確かな力をつけるための個別最適な学びとは一体何かを1年目に解明することを願っている。この研究が、大阪市や国語教育へ大きな提案性のある研究へとつながるだろう。昨年度の研究では優秀な研究に選定された。研究メンバーでの学習会や公開研究会を丁寧に重ねており、大阪市や全国の先生方へ研究の成果を還元している。ぜひ、本研究を推進するために申請を認めていただきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目）</p> <p>この1年で「令和の日本型教育」「個別最適な学び」という言葉が浸透した。研究会や書籍のタイトルとして多く並ぶ。ただ、その実態が何か分からず言葉に踊らされ、表面的な内容しか掴めない今までの改革を繰り返したくないと願う。昨年度の公開には多くの参観者があり、終了後に問合せも続いた事実から本研究の必要性は明らかである。教職員の評価に加え、児童の学びも変容しつつある。授業観、児童観を整理し、改革の本質を提案できるようにするためにも、引き続き研究を深める必要がある。授業の基本である教材分析と公開授業での子どもの姿をセットで研究する地味で地道な研究である。引き続き、研究を推進するための力を与えてほしい。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>子どもの学びの未来については現在、中央教育審議会教育課的企画特別部会で話し合われている。「多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方」では、まさに本研究に関わる内容が議論されている。子どもたちが学びを自己調整し、教師が指導力を発揮するにはどうすればいいのか。学習環境デザインをどのように整えればいいのか。新たな時代にふさわしい学びや指導はどうあるべきか。これらの答えのない問いに向かって、本研究メンバーは3年間研究を重ねてきた。最終年度である今年、これらの問いに対して一定の答えを導き出してくれることを期待している。多くの先生を巻き込みながら、答えなき問い合わせ奮闘する取り組みを応援したい。ぜひ、3年目の研究を後押しし、取り組みを継続させていただきたい。</p>						